

働き者のこども支援員

支援員ニュース おじゃましまーす

赤浜第4仮設団地



「支援員手伝い」の夏望ちゃん用の、手作りのネームにも注目です！！



支援員と夏望ちゃんが協力して作った行事予定カレンダー

今月は赤浜第4（惣川）仮設団地のご紹介をします。惣川の談話室には、2人の支援員が常駐しています。そこに夕方4時から、もう一人の最新少支援員も加

わります。小学4年生の小國夏望（おぐになみ）ちゃんです。学校から帰ってくると談話室にきて学校での話や宿題をします。それから談話室が閉まる5時30分までの時間を、支援員のお手伝いをしながらここで過ごします。

一緒に折り紙をしたのがきっかけで、談話室に通うようになった。今までに、行事予定カレンダーの装飾を夏望ちゃんが作ったことでもあります。季節に合わせて折り紙で飾り付けられたカレンダーは、談話室の玄関に張り付けられ、住民の皆さんに活用されました。他にも、飲んだ後のコップを洗ったり、掃除機をかけたり、とにかく何でもお手伝いが大好きです。

7月からは、支援員と

一緒に毎日の就業の日報を記録し始めました。翌日の、マネージャーからのチェックを楽しみにしています。支援員の阿部さんと川口さんはこう話します。「例えば、あれどこにやっ

大切にしていきたい昔のような地域性

幼い頃、自分から名乗らなくても地域の大人達が自分を知っているという経験があったと思います。「どこそこの子供だ、孫だ」って。それがまた団地内で出来てきているって嬉しい事です。これからの赤浜を背負っていく子供を見守っていきたくと思いました。

くらしの知恵

ローンの救済策、「利用下ろし」

被災ローン減免制度（私的整理ガイドライン）をご存じですか？被災し失った自宅や車などの、震災前のローン返済の目途が立たない時や、仮設住宅を出た後の新たな住居費（家賃等）が支払えなくなりそうな場合に、ローンや抵当権を整理するためのしくみです。

制度を使える人

- 返済をすることができない。
 - 返済にあてる資金がない。
 - 収入がない、または収入減少で返済できない。
 - 返済できない事が将来確実。
 - 仮設から新しい住居に移り支出が増え返済ができなくなる。
- コールセンター 0120-380-883

当初は被災地で1万件の利用が見込まれていました。利用が進まず、昨年の8月の運用開始から今年の9月までの合意成立は70件程度です。そのため条件が緩和され、手元に残る資金も百万円から五百万円になりました。

破産手続きとは異なり、原則として保証人に請求されません。ブラックリストに載らない。不動産を残せる。無料で専門家の援助が受けられる。などのメリットがあります。まず運営委員会（コールセンター）にご相談下さい。そこから弁護士等の登録専門家の紹介をうけることができます。書類作成後、金融機関に債務整理の申し出をし、返済計画案を提出。金融機関の同意が得られると減免になります。

Information

●ふれあいサロン

- 【日時】10月12日 10:00～12:00
- 【場所】赤浜第4（惣川）安渡第2、小鎚第8 吉里吉里第5（堤が丘）
- 【日時】10月10日 10:00～12:00
- 【場所】大槌第8（孵化場）小鎚第16
- 【日時】10月26日 13:00～15:00
- 【場所】小鎚第20（生井沢）大槌第7

- 【場所】大槌第5（和野）大槌第9（ほろいわ）大槌第10（前段）
- アメリカの教会からピエロがやってくる！
- 【日時】10月17日 10:30～12:00
- 【場所】大槌第3（和野）
- 【日時】10月17日 14:00～15:00
- 【場所】小鎚第4（エコハウス）
- 音楽（バイオリン）と健康講座
- 【日時】10月27日 10:30～12:00
- 【場所】吉里吉里第2（浪板）

編集後記

イトヨ便りも3号目になります。取材、執筆、発行、締切と追われていると、1ヵ月がとて早く感じられます。

先月、赤浜のみかづき団地で「一閑張（いっかんばり）作り」のイベントがあり、私も参加させていただきました。糊付けして乾燥させ、柿渋を塗ると、1日では完成しない作品です。手間をか

けて出来上がったものを見ると、それぞれ作った方の味がでていて、ふっと作成中のにぎやかな風景が浮かんできます。ギャハハと大きな声が談話室に響き、皆さん終始笑顔でした。

「取材」の枠を超えて、本当に楽しませてくれた貴重な時間でした。（K）

ご意見・ご感想は、こちらまで。
大槌町上町1-6/0193-41-2780
otsch.info@gmail.com

今月のスマイル

ミニバスケットボール少年団 「試合が1番好き！」



写真撮影に照れ気味の女子と、変顔上等の男子（笑）

大槌のミニバスケットボール少年団は、今年の春に活動を再開しました。毎週土日、午前中に城山体育館で練習しています。

バスケットを楽しみながら「仲間作り」も学んでほしいという思いがあります。再開当初は、知らない人同

メンバーは、男子15人、女子10人で、現在は小学2年生、小学6年生が所属しています。指導者の田中さんには、

士の練習の中で、出身校ごとに行動する姿がよく見られていたそうです。練習の回数を重ねるにつれ、打ち解けるようになりました。

ミニバスケットは、5人でプレイしますが、1試合に必ず10人は出ましよう！という10人制ルールがあります。これにより上手な子だけが試合に出るのではなく、多くの子に出場するチャンスがあります。子供たちは、バスケットを続けてきて「キツイし、辞めたいなあって何回も思った」と正直な気持ちを話してくれました。それでも続けたのは何で？と聞くと「試合が楽しいから！皆がいるから。」という答えがたくさん返ってきました。残暑が続く体育館の中で、汗を流しながら仲間達と一生懸命練習を頑張る姿は、キラキラと輝いていました。